

指導主事を対象とした「教員研修デザインの独学教材」の開発

～ストーリーテリングの考え方を援用して～

Development of Self-Learning Materials for Teacher Training Design
: A Guide for Supervisors

江尻寛正*,** 合田美子**
Hiromasa Ejiri*,** Yoshiko Goda**

- *岡山県教育庁義務教育課 **熊本大学大学院教授システム学専攻
1. * Compulsory Education Division, Okayama Board of Education
2. **Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて、指導主事には研修デザインの学び直しの機会が必要だと示されているものの、研修時間の確保さえ難しいのが現状である。そこで、指導主事がそれぞれの実情に合わせて学ぶことができるように、独学教材の開発を試みた。事後テストの結果から、知識及び技能面の向上が見られた。また、自分に関わる研修を変えていく意欲や、研修の在り方を捉え直すうえで価値があるという感想を引き出すことができた。

＜キーワード＞ 指導主事 教員研修デザイン 独学教材

1. はじめに

文部科学省（2022）は、子供たちの個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等のためには、教師自身の学び（研修観）を転換することが必要だと示し、その実現のためには、「教育委員会で実際に研修に携わる指導主事等に対し、研修デザインに関する学び直しの機会等が提供されるべきである。」と述べている。学び直しの機会に関連して、持田ほか（2020）が、指導主事の学びの体制整備は急務であり、力量向上のための研修の在り方を考察する必要があると指摘しているものの、猿田（2019）が述べているように「事務局の指導主事は、その業務の多くが他律的であるが故に、研修を受けられるだけの十分な時間を確保することが難しい」のが実情である。このままでは答申が絵に描いた餅になり、子供たち及び教師の学びの充実につながらないことが危惧される。実情を踏まえた実現可能な取組を考えることは、喫緊の課題と言える。

2. 研究の目的及び方法

本研究は、「研修観の転換」を促す教員研修デザインについて指導主事が学ぶことを目的にした研究である。その際、集合研修を増やすことは指導主事の実情にそぐわないため、各自で学ぶことができる独学教材を開発し、その効果検証を行うこととする。



図1 独学教材

対象: A 県義務教育課指導主事 9 名（指導主事経験 1～7 年目）

学びの全体像: 教材での学習時間は 1 時間程度を想定する。TOTE モデルに依り、事前テストを各自で行って、満点の場合は独学する必要がないと判断する。独学

を行った指導主事に事後テスト（事前テストと同レベルの内容）とアンケートを行い、理解度等の変容を測る。テスト及びアンケートは、Google フォームで効率良く行う。

教材の学習目標: 「学習目標を明確化するポイントが書いてあるか吟味することができる。」など

教材作成の工夫: 独学で学ぶことができる教材とするために、インストラクショナルデザインの知見を取り入れる。まず、短期間で観の転換に資するために、「共感が生まれ、データや事実以上に考えが伝わりやすくなる」と Aaker（2023）が報告しているストーリーテリングの考え方を援用する。具体的には、新任指導主事を主人公とした物語とし、失敗体験なども位置付けることで共感しやすくする。

その上で、ARCSモデルに基づいて、たとえ話やコラムを挿入して注意を引いたり、まとめごとに確認テストを行って自信をつけたりしながら、飽きることなく内容を理解することができるようにする。また、内容の「知識面」として、中教審の内容やメリルの第一原理等を扱うと共に、「技能面」として、学習目標の明確化を扱い、実際に自分が携わった研修の学習目標を教材学習中に改善する課題を取り入れることで、自分の成長を実感し、満足感を得ることができるようになる。そして、教材の最後に「この物語自体もメリルの第一原理に基づいて作成している」と種明かしをすることで、物語や内容に対する共感の気持ちをさらに強化し、十分な内容理解につなげることができるようになる。なお、独学教材の質を高めるために、形成的評価を2度行ってから効果検証を実施する。

3. 結果及び考察

指導主事9名（A～I）の事前・事後テスト（共に16問が満点）の正答数を図2に示す。

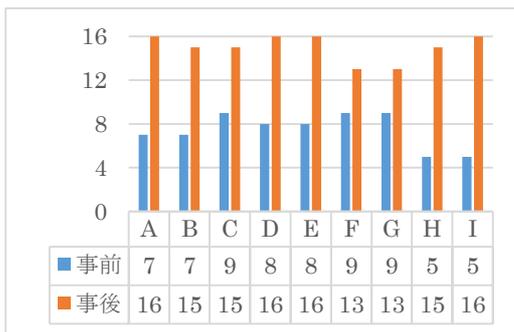


図2 事前・事後テストの正答数

全ての指導主事の正答数が向上したことから、本教材は知識・技能面の向上に資することが分かった。また、4件法で行ったアンケートから3つを抜粋し、肯定的な回答（4が最上位）を選択した人数を表1にまとめる。

表1 アンケート結果（抜粋）

質問	4を選択	3を選択
「新たな教師の学び」について、答申で求められていることを理解することができましたか。	7人	2人
行動が変わる教員研修デザインのポイント（メリルの第一原理等）について理解することができましたか。	4人	5人
今後、自分が関わる研修をデザインするにあたって、教材で学んだポイントを取り入れたいと思いますか。	8人	1人

アンケートにおいて、自分が関わる研修に「教材で学んだポイントを取り入れたい」と

全員が肯定的に回答していることは、従来の研修を改善していきたい態度の表れだと捉えた。合わせて、指導主事歴が一番長い指導主事A（7年目）が、独学後に次のようにコメントしたことから、本教材が研修観の転換に資するものであると考えた。

これからの研修の在り方を捉え直すうえで価値あるテキストだと思います。是非とも県内の指導主事がこのテキストに触れるべき！教師が学習目標を設定する際、学習目標の明確化は参考になると思います。

4. まとめ

ストーリーテリングの考え方を援用し、ARCSモデル及びメリルの第一原理に沿って作成した独学教材は、指導主事の研修観の転換に資することが示唆された。ただし、本研究は母数が少ないことと共に、教材で学んだ指導主事が実際には研修をデザインしていないことが課題である。今後は、実際にデザイン及び研修を実施する中で、内容面も含めて協働的に内省や対話を繰り返しながら、「研修観の転換」を実現する教員研修をデザインする資質・能力を指導主事がどのように身に付けていくかを明らかにしていきたい。

参考文献

- 猿田祐嗣（2019）「次世代の学校」実現に向けた教育長・指導主事の資質・能力向上に関する調査研究報告書。平成30年度プロジェクト研究（「次世代の学校」における教員等の養成・研修，マネジメント機能強化に関する総合的研究）報告書
- 持田訓子ほか（2020）指導主事に求められる資質・能力に関する課題の整理—指導主事の力量向上のための研修の在り方—。教育デザイン研究11，198-207
- 文部科学省（2022）中教審第240号『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～
- Jennifer Aaker, 2023, スタンフォード大学ホームページ 2023年12月16日取得, <https://womensleadership.stanford.edu/resources/voice-influence/harnessing-power-stories>